

平成二十八年 国語問題

【一】 次の各文の傍線部の漢字として正しいものを一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 生徒をタイシヨウとした説明会を開く。
(ア・対象) イ・対照 ウ・対称 エ・对症
- ② 野菜のソクセイ栽培をする。
(ア・促成) イ・速成 ウ・即製 エ・促制
- ③ 臓器をイシヨクする。
(ア・委嘱) イ・依嘱 ウ・移植 エ・異植
- ④ カイシンの笑みを浮かべる。
(ア・会心) イ・改心 ウ・戒心 エ・快心
- ⑤ キセイ品の服を買う。
(ア・既成) イ・既製 ウ・規制 エ・規製

【二】 次の各四字熟語の□にあてはまるものを一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① □心□心 (ア・意伝) イ・一同 ウ・以伝 エ・一専
- ② 本□転□ (ア・末頭) イ・末倒 ウ・待倒 エ・抹倒
- ③ □□直入 (ア・担当) イ・短刀 ウ・単頭 エ・単刀
- ④ 同□□曲 (ア・工異) イ・功異 ウ・音異 エ・音違
- ⑤ □代末□ (ア・全文) イ・前文 ウ・善聞 エ・前聞

【三】 次の各文の傍線部の文法的説明はどれにあたるか。最も適当なものを一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 祖父は病気で死にました。
(ア・動詞) イ・形容詞 ウ・助動詞 エ・動詞の活用語尾 オ・形容詞の活用語尾
- ② 名前を呼ばれたら、すぐに返事をしなさい。
(ア・副詞) イ・代名詞 ウ・副詞の一部 エ・代名詞の一部 オ・連体詞
- ③ 彼女は病気だそうで、今日も学校を休みだ。
(ア・形容動詞) イ・形容動詞の活用語尾 ウ・助動詞 エ・助動詞の活用語尾 オ・形容詞の活用語尾
- ④ 弟は病弱だったが、この頃丈夫になった。
(ア・助動詞) イ・助動詞の活用語尾 ウ・形容詞 エ・形容詞の活用語尾 オ・形容動詞の活用語尾
- ⑤ 高原は静かで、空気も美味しい。
(ア・助動詞) イ・助動詞の活用語尾 ウ・形容動詞 エ・形容動詞の活用語尾 オ・形容詞の活用語尾

【四】 次の各文の()内の中から、使い方の最もよいものを一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 交通事故は、今日の私たちが(ア・直面) イ・関係 ウ・対面 エ・直結 オ・対応) している脅威の一つである。
- ② 真実を(ア・報道) イ・放送 ウ・報告 エ・報導 オ・取材)するのが新聞の使命である。
- ③ 人間は、新しい事態に(ア・摘要) イ・適用 ウ・適応 エ・対応 オ・耐用) して変わっていく。
- ④ その本があるかどうかを、書店に(ア・紹介) イ・照会 ウ・詳解 エ・商会 オ・詳会) してもらおう。
- ⑤ この本は彼女が(ア・現存) イ・現実 ウ・直接 エ・虚実 オ・事実) の生活の中で体験したことを書いたものである。

【五】 次の各文の傍線部の意味として最も適当なものを一つ選び、答えをマークしなさい。

- ① 多くの人が彼女にはさじをなげている。
ア・少しは同情している イ・希望をかけている
ウ・あきらめている エ・うらやんでいる
- ② 案の定、彼は失敗した。
ア・不思議なことに イ・意外なことに
ウ・思った通りに エ・心配したように
- ③ あの人は、おもむろに手を上げた。
ア・すぐに イ・おそろおそろ
ウ・ゆっくりと エ・こわごと
- ④ 国語の問題にてこずるようだ。
ア・あわてる イ・恐れる
ウ・嘆く エ・もてあます
- ⑤ 試合では、不意をつかれて負けた。
ア・初めてのことであわてて イ・予想しないことに感心して
ウ・思いがけないことにびっくりして エ・突然の事に困り果てて

【六】 次の各文は先人の名言である。〈 〉内を参考にして、（ ）内から最も適当なものを選び、答えをマークしなさい。

- ① 人間は考える「」。〈バスカルの言葉〉
（ア・葦である イ・海である ウ・宇宙である エ・魂である）
- ② 青年よ「」。〈クラークの言葉〉
（ア・多くを悩め イ・必ず実行せよ ウ・大志を抱け エ・失敗を恐れるな）
- ③ 賢者は聞き「」。〈イスラエル王の言葉〉
（ア・愚者は滅びる イ・愚者は眠る ウ・愚者は語る エ・愚者は死す）
- ④ 「」戦争、「」平和などあったためしがない。〈フランクリンの言葉〉
（ア・良い 悪い イ・悪い 良い ウ・良い 良い エ・悪い 悪い）
- ⑤ 去るものは「」。〈文選（もんぜん）より〉
（ア・滅びる イ・日々に疎し ウ・追わず エ・再び来ず）

【七】 次の文学史についての各問に答えよ。

- ① 夏目漱石の作品でないものを一つ選び、答えをマークしなさい。
（ア・坊っちゃん イ・明暗 ウ・三四郎 エ・浮雲）
- ② 平安時代の作品を一つ選び、答えをマークしなさい。
（ア・平家物語 イ・方丈記 ウ・徒然草 エ・更級日記）
- ③ 川端康成の作品でないものを一つ選び、答えをマークしなさい。
（ア・雪国 イ・細雪 ウ・千羽鶴 エ・眠れる美女）
- ④ 『伊勢物語』の主人公と言われている人物を一人選び、答えをマークしなさい。
（ア・光源氏 イ・在原業平 ウ・源義経 エ・柿本人麻呂）
- ⑤ 『枕草子』と同じジャンルの作品を一つ選び、答えをマークしなさい。
（ア・平家物語 イ・源氏物語 ウ・土佐日記 エ・徒然草）

【八】次の文章を読み、後の問に答えなさい。

「自分」とは地図の中の現在位置の矢印程度で、基本的に誰の脳でも備えている機能の一つに過ぎない。とすると、①「自己の確立」だの「個性の発揮」だのは、やはりそうたいしたものではない。そう考えたほうが自然な気がしてきます。

もともと日本人は、「自己」とか「個性」をさほど大切なものだとは考えていなかったし、今も本当はそんなものを必要としないのではないでしょう。(ア)

最近、ハーバードのビジネススクールの教授が書いた本を読みました。それにこんなエピソードがあります。「人生で自分自身で決めたいことはなにか」と日米の大学生に書かせてみたところ、②アメリカ人の学生は配られた紙の裏側まで使ってびっしりと書いた。一方で、③日本の大学生は、「住まい」とか「仕事」とか、二行程度書いておしまっただった。

このエピソードをどう考えるべきか。

きつと「自己の確立」や「個性の発揮」を大切だと考える人は、「だから日本の学生はダメなんだ」と言うのでしょうか。

「自分のことは積極的に自分で決めなくてはいけない、そうやって道を切り拓くべきだ、そのためには大学生にディベートを叩き込め、個性を伸ばせ、そうしないと、これからのグローバル化した社会を生き抜くことはできない」という論調はよく目にします。

(A) (A)、日本の大学生にそういう意味での「自己」や「個性」がないのだとすれば、そしてずっと日本人がそういう性質なのだとすれば、それはそういうものを強く求めない文化が日本にあるからだ、と考えたほうがいいのではないのでしょうか。

アメリカの文化は、常に周囲がその人に対して「自己」をつくるように求めています。強要してくるといってもいい。それが一番端的に表れるのが、

「コーヒーにしますか？紅茶にしますか？」

という質問です。いろんなところでそう聞かれるけれども、たいいてい私はどっちでもいい。ところが、「どっちでもいいよ、そっちの都合で」と英語で言うのは、意外と面倒なのです。

アメリカは、「あなたはこれか？あれか？」と選択を迫ってくる文化を持っています。それに常に答え続けるとは、どういうことか。(B) 答えるうちに、「自己」「個性」をつくっていかざるをえないのです。

「コーヒーにします」

そう答えた時点で、「自分はこういう時にコーヒーと答える人間だ」という項目が「自分」の構成要素として確立されます。別の時に、

「ビールにしますか？チキンにしますか？」

と聞かれて、

「チキンです」

と答えれば、「基本的に自分はチキン派だ」という項目が立ちます。

日本はどうか。どこかにお邪魔して座ると、黙ってお茶が出てくる。もちろん近頃では「お飲み物は何がよろしいでしょうか？」と聞いてくることもあるでしょうが、聞かれないことが多い。(イ)

黙って出されて、黙って飲む。そういう人が大半です。

そこで「私はコーヒー派なので、お茶はいりません」と我を張る人は、たいいてい嫌がられます。面倒くさいやつだと思われることでしょう。

④この文化の差は些細に見えるかもしれませんが、かなり根本的な違いです。たまたまアメリカを例にしましたが、ヨーロッパでも同じようなものです。

だから日本人は優れているとか、劣っているとか、そういう話をしたいのではありません。そういう文化で私たちは育っている、ということ。(ウ)

試しに、先ほどの大学生への課題をご自分で考えてみればいいでしょう。「人生で自分自身で決めたいこと」はなにか。A4判の紙で裏までビッシリ書ける人がどれだけいるでしょうか。結構、「それは (I) が決めること」で済みますものが多いのではないのでしょうか。

繰り返ししますが、それが正しいとか間違っているとか、そういう話をしていてはなりません。

しかし、生物学的に見ても「自分」などというものは、地図の中の矢印に過ぎない。そして社会的に見ても、日本において「自分」を立てることが、そう重要だとも思えない。このように考えると、⑤戦後、私たち日本人はずいぶん無駄なことをしてきたのではないか、と思えてしまうのです。(エ)

「個性を伸ばせ」「自己を確立せよ」といった教育は、若い人に無理を要求してきただけなのではないのでしょうか。

身の丈に合わないことを強いているのですから、結果が良くなるはずはありません。

それよりは世間と折り合うことの大切さを教えたほうが、はるかにましではないでしょうか。

こういう話をする、「⑥それでは世間や他人の顔色をうかがってばかりの人間だけになってしまっじゃないか」という人がいるかもしれません。「それでは社会が前に進まないではないか」と。

でも、そんな心配は要りません。

最初に述べたように、世間に押しつぶされそうになってもつぶれないものが「個性」です。

結局、誰しも世間と折り合えない部分は出てきます。それで折り合えないところについては、ケンカすればいいのです。それで世間が勝つか、自分が勝つかはわかりません。

でも、それでも残った自分が「本当の自分」のはずです。

「本当の自分」は、徹底的に争ったあとにも残る。むしろ、そういう過程を経ないと見えてこないという面がある。最初から発見できるものでも、発揮できるものでもありません。

日本の伝統芸能の世界は、そのことをよく示しています。入門した弟子は、まず徹底的に⑦師匠の真似をさせられます。

「とにかく同じようにやれ」

その過程が一〇年、二〇年と続きます。

そんなふうにしても師匠のクローンをつくることはできません。どこかがどうしても違って来る。その違いこそが、師匠の個性であり、また弟子の個性でもあります。徹底的に真似をすることから個性は生まれるのです。

弟子入りの最初の段階から「個性を伸ばせ」などと言っても意味がない。それは伝統芸能を学んだことがない人でも、ピンと来るのではないのでしょうか。

【出典 養老孟司『自分』の壁』 新潮新書】

問一 この文章には次の一文が欠落している。本文中の（ア）～（エ）のどこに入れたらいいか。最も適当な箇所を一つ選び、答えをマークしなさい。

これは簡単に意識で変えられるようなものではない。

問二 傍線部①『自己の確立』だの「個性の発揮」とあるが、筆者の考える「自己の確立」や「個性の発揮」とはどのようなことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

ア・日本の教育がアメリカのシステムを導入して、徹底した環境を作っていくこと。

イ・日本語の文法を英語の様に変更して、自己主張しやすい言語に変えていくこと。

ウ・社会との協調を考えることなく、徹底して自分の考えを伝える環境を作ること。

エ・社会と自分との違いをしっかりと見つけ、結果的に残ったものを大事にすること。

問三 傍線部②「アメリカ人の学生は配られた紙の裏側まで使ってびっしりと書いた」とあるが、なぜか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

ア・アメリカの文化は、社会のなかでの協調性が重要だという感覚が強くあるから。

イ・アメリカの文化は、それぞれの人が答えを明確に出すことを要求してくるから。

ウ・アメリカの文化は、他国の文化より優越感を感じるために自己を主張するから。

エ・アメリカの文化は、他人との比較で個性を明確に主張する感覚が強くあるから。

問四 傍線部③『日本の大学生は、「住まい」とか「仕事」とか、二行程度書いておしまいだった』とあるが、そのようになった理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

ア・アメリカの文化を日本に適用しようと教育システムを作ったが、うまく運用できずに終わってしまったから。

イ・日本では、自分のことを相手に伝えることは失礼にあたるのではないようにという感覚が強くあったから。

ウ・日本人は、自分の考えをしっかりと持つということをそれほど強く必要とする文化が存在していなかったから。

エ・世界がグローバル化する中で、人生の中で自分自身で決めることに意味を見いだしくなっているから。

- 問五 本文中(A)・(B)に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。
- ア・(A) たとえば (B) でも
イ・(A) つまり (B) したがって
ウ・(A) でも (B) つまり
エ・(A) また (B) なぜなら

問六 傍線部④「この文化の差」の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・アメリカの文化は何か飲みたいのかを主張する必要に迫られるが、日本の文化は出されたものを黙って飲むこと。
イ・アメリカの文化はコーヒーか紅茶の選択肢しかないが、日本の文化は数多くの選択肢の中から選べるということ。
ウ・アメリカの文化はヨーロッパの文化とは大きくかけ離れているので、日本の文化とは非常に近い部分があること。
エ・アメリカの文化は自分の考えをはっきり主張するので、日本の文化と比べると優れた側面を多く持っていること。

問七 本文中(I)に入る最も適当な語句を次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・世間 イ・自分 ウ・文化 エ・感覚

問八 傍線部⑤「戦後、私たち日本人はずいぶん無駄なことをしてきたのではないか、と思えてしまうのです」と筆者が考えるのはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・戦後、日本の教育は欧米化を目指して進めてきたが、結果的に他人の真似ばかりする人間を作り出すことになってしまっているから。
イ・戦後、日本の教育は欧米化を目指して進めてきたが、「自己の確立」や「個性の発揮」の意味を理解することができていないから。
ウ・戦後、日本の教育は欧米化を目指して進めてきたが、現在でもまだ欧米人の水準まで達することができず、失敗に終わっているから。
エ・戦後、日本の教育は欧米化を目指して進めてきたが、本来日本の社会では個人の意見を伝えることが、重要なことではなかったから。

問九 傍線部⑥「それ」は具体的に何を指しているか。最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・欧米の教育を日本でもさらに実践すること。
イ・世間と折り合うことの大切さを教えること。
ウ・「個性を伸ばす」ことの大切さを教えること。
エ・弟子が師匠の真似ばかりを実践していくこと。

問十 傍線部⑦「師匠の真似をさせられます」とあるが、なぜそのようにするのか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、答えをマークしなさい。

- ア・徹底的に師匠の真似をすることで、師匠と同じレベルまで達することができるから。
イ・最初は真似をしても時間と共に少しの違いが生まれ、個性として発揮できるから。
ウ・長い時間師匠と同じようなことをしていれば、師匠の欠点を指摘できるようになるから。
エ・長い歴史の間日本の伝統芸能においては、個性の発揮は必要ないと考えられているから。